

いつも気をつけよう

これまでに学習したことです。学習を進めるときに、たしかめましょう。

話すとき

- 大事なこと（話の中心）を考えて話す。
- 話の組み立てを考える。

聞くとき

- 話の中心に気をつけて聞く。
- 自分だったらと考えたり、自分の知っていることとつなげたりしながら聞く。

話し合うとき

- 司会をする人を決め、司会の進行にそって話し合う。
- さんかする人は、自分の考えとその理由を言う。



話す・聞く

書くとき

- 文字を、正しく書く。
- 丸（○）、点（・）、かぎ（「」）を正しく使う。
- 「は」「を」「へ」を正しく使う。
- じゅんじよに気をつけて書く。

- 調べたことをほうこくする文章を書くときは、次のような組み立てて書く。
- 調べたきっかけや理由／調べ方／調べて分かったこと・考えたこと／感想
- 手紙を書くときは、だれに、何をたえるのかをはっきりさせて書く。



書く

つづけてみよう

ノートとなかよくなるよう

書き方をくふうして、あなただけのノートを作りたい。

友だちの発言や、自分が思ったり考えたりしたことを、自由に書きこむところを作る。



読む

物語を読むとき

- 声の強弱や高さ、読む速さ、間の取り方などに気をつけて音読する。
- 登場人物の行動や会話に気をつけて読む。

- 登場人物の気持ちや、場面の様子を思いうかべながら読む。

- 物語の中で起こる出来事に着目して読む。

せつめいしている文章を読むとき

- 時間を表す言葉や、じゅんじよを表す言葉などに気をつけて読む。

- 文章全体を、「はじめ」「中」「終わり」の大きなまとまりでとらえる。

- 段落（文章を組み立てているまとまり）ごとに、書いてあることをとらえる。

15

10

5

10

5

- 分からない言葉コーナー
- はすむかい……ななめ前。

分からない言葉があったら書き出し、

国語辞典で意味をたしかめる。

石田さん
楽しいかげおくり。

↓同じ考え。



場面のうつりかわりをとらえて、感想をまとめよう
場面ごとに、どんな出来事があったのかをとらえ、何がかわったのかを考えましょう。
心をうたれた場面を中心に、感想をまとめましょう。

ちいちゃんのかげおくり

あまん きみこ 作
上野 紀子 絵

「かげおくり」って遊びをちいちゃんに教えてくれたのは、お父さんでした。

出征する前の日、お父さんは、ちいちゃん、お兄ちゃん、お母さんをつれて、先祖のはかまいりに行きました。その帰り道、青い空を見上げたお父さんが、つぶやきました。

「かげおくりのよくできそうな空だなあ。」

「えっ、かげおくり。」

と、お兄ちゃんがきき返しました。

「かげおくりって、なあに。」

と、ちいちゃんもたずねました。

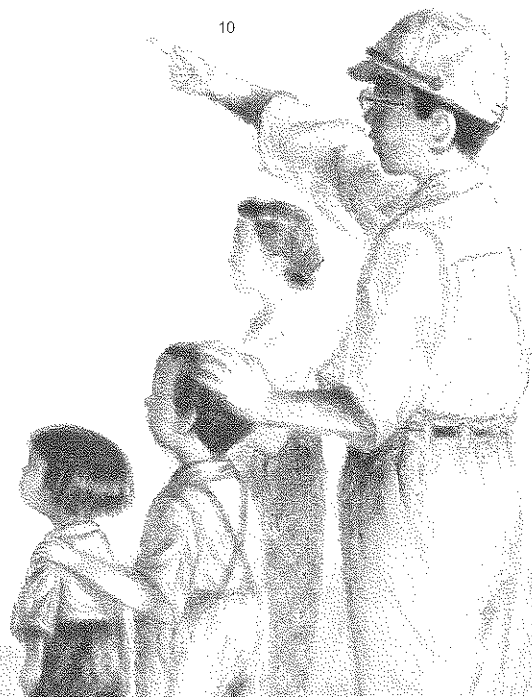
「十、数える間、かげぼうしをじっと見つめるのさ。十、と言ったら、空を見上げる。すると、かげぼうしがそっくり空にうつって見える。」

と、お父さんがせつめいしました。

「父さんや母さんが子どものときに、よく遊んだものさ。」

「ね。今、みんなで作ってみましょうよ。」
と、お母さんが横から言いました。

ちいちゃんとお兄ちゃんを中にして、四人は手を



感想

出征

へいたいになって、
ぐんたいに入り、い
くさ(せんそう)に
行くこと。

◆お父さん

◆お兄ちゃん

つなぎました。そして、みんなで、かげぼうしに目を落としました。

「まばたきしちゃ、だめよ。」

と、お母さんが注意しました。

「まばたきしないよ。」

ちいちゃんとお兄ちゃんが、やくそくしました。

「ひとうつ、ふたあつ、みいつつ。」

と、お父さんが数えだしました。

「ようつつ、いつうつ、むうつつ。」

と、お母さんの声もかさなりました。

「ななあつ、やあつつ、ここのうつ。」

ちいちゃんとお兄ちゃんも、いっしょに数えだしました。

「とお。」

目の動きといっしょに、白い四つのかげぼうしが、すうつと空に上がりました。

「すごい。」

と、お兄ちゃんが言いました。

「すごい。」

と、ちいちゃんも言いました。

「今日の記念写真だなあ。」

と、お父さんが言いました。

「大きな記念写真だこと。」

と、お母さんが言いました。

次の日、お父さんは、白いたすきをかたから



ななめにかけて、日の丸のはたに送られて、列車に乗りました。

「体の弱いお父さんまで、いくさに行かなければならないなんて。」

お母さんがぼつんと言ったのが、ちいちゃんの耳には聞こえました。

ちいちゃんとお兄ちゃんは、かげおくりをして遊ぶようになりました。

ばんざいをしたかげおくり。かた手をあげたかげおくり。足を開いたかげおくり。いろいろなかげを空に送りました。

けれど、いくさがはげしくなって、かげおくりなどできなくなりました。この町の空にも、しょういだんやばくだんをつんだひこうきが、とんでくるようになりました。そうです。広い空は、楽しい所ではなく、とてもこわい所になりました。

夏のはじめのある夜、くうしゅうけいほうのサイレンで、ちいちゃん

たちは目がさめました。

「さあ、急いで。」

お母さんの声。

外に出ると、もう、赤い火が、あちこちに上がっていました。

お母さんは、ちいちゃんとお兄ちゃんを両手につないで、走りました。

風の強い日でした。

「こっちに火が回るぞ。」

「川の方ににげるんだ。」

だれかがさけんでいます。

風があつくなくなってきました。ほのおの

うずが追いかけてきます。お母さんは、

ちいちゃんをだき上げて走りました。

送る

列車

乗る

しょういだん

たてものをやきはら

うために作られたば

くだん。

くうしゅうけい

ほう

てきのひこうきによ

るこっげきを知らせ

る合図。

追いかける

「お兄ちゃん、はぐれちゃだめよ。」

お兄ちゃんがころびました。足から血が出ています。ひどいけがです。お母さんは、お兄ちゃんをおんぶしました。

「さあ、ちいちゃん、母さんとしっかり走るのよ。」

けれど、たくさんの人に追いぬかれたり、ぶつかったり——、ちいちゃんは、お母さんとはぐれました。

「お母ちゃん、お母ちゃん。」

ちいちゃんはさけびました。

そのとき、知らないおじさんが言いました。

「お母ちゃんは、後から来るよ。」

そのおじさんは、ちいちゃんをだいて走ってくれました。



暗い橋の下に、たくさんの人が集まっています。ちいちゃんの目に、お母さんらしい人が見えました。

「お母ちゃん。」

と、ちいちゃんがさけぶと、おじさんは、

「見つかったかい。よかった、よかった。」

と下ろしてくれました。

でも、その人は、お母さんではありませんでした。

ちいちゃんは、ひとりぼっちになりました。ちいちゃんは、たくさんの人たちの中でねむりました。

朝になりました。町の様子は、すっかりかわっています。あちこち、けむりがのこっています。どこがうちなのか——。

「ちいちゃんじゃないの。」

という声。ふりむくと、はすむかいのうちのおばさんが立っています。

「お母ちゃんは。お兄ちゃんは。」

と、おばさんがたずねました。ちいちゃんは、なくのをやっところらえて
言いました。

「おうちのどこ。」

「そう、おうちにもどっているのね。おばちゃん、今から帰るところよ。
いっしょに行きましょうか。」

おばさんは、ちいちゃんの手をつないでくれました。二人は歩きだし
ました。

家は、やけ落ちてなくなっていました。

「ここがお兄ちゃんとあたしの部屋。」

ちいちゃんがしゃがんでいると、おばさんがやって
来て言いました。

「お母ちゃんたち、ここに帰ってくるの。」

ちいちゃんは、深くうなずきました。

「じゃあ、だいじょうぶね。あのね、おばちゃんは、

今から、おばちゃんのお父さんのうちに行くからね。」

ちいちゃんは、また深くうなずきました。

その夜、ちいちゃんは、ざつのうの中に入れてある
ほしいいを、少し食べました。そして、こわれかかっ
た暗いぼうくうごうの中で、ねむりました。

「お母ちゃんとお兄ちゃんは、きつと帰ってくるよ。」

くもった朝が来て、昼がすぎ、また、暗い夜が来ま

10



10

5

ざつのう

いろいろな物を入れて
かたにかける、ぬ
ので作ったかばん。

ほしいい

ごはんをほしてかわ
かした食べ物。

ぼうくうごう

ばくだんなどから身
をまもるためにほっ
た、大きなあな。

◆部屋

した。ちいちゃんは、ざつのうの中のほしいを、また少しかじりました。そして、こわれかかったぼうくうごうの中でねむりました。

明るい光が顔に当たって、目がさめました。
「まぶしいな。」

ちいちゃんは、暑いような寒いような気がしました。ひどくのどがかわいています。いつのまにか、太陽は、高く上がっていました。

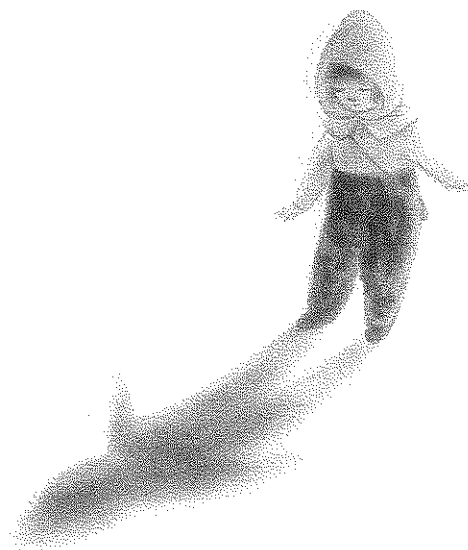
そのとき、

「かげおくりのよくできそうな空だなあ。」

というお父さんの声が、青い空からふってきました。

「ね。今、みんなで作ってみましょうよ。」

というお母さんの声も、青い空からふってきました。



太陽
暑い

ちいちゃんは、ふらふらする足をふみしめて立ち上がると、たった

一つのかげぼうしを見つめながら、数えだしました。

「ひとつつ、ふたあつ、みいつつ。」

いつのまにか、お父さんのひくい声が、かさなって聞こえだしました。

「ようつつ、いつつつ、むうつつ。」

お母さんの高い声も、それにかさなって聞こえだしました。

「ななあつ、やあつつ、こここのうつ。」

お兄ちゃんのわらいそうな声も、かさなってきました。

「とお。」

ちいちゃんが空を見上げると、青い空に、くっきりと白いかげが四つ。



「お父ちゃん。」

ちいちゃんはよびました。

「お母ちゃん、お兄ちゃん。」

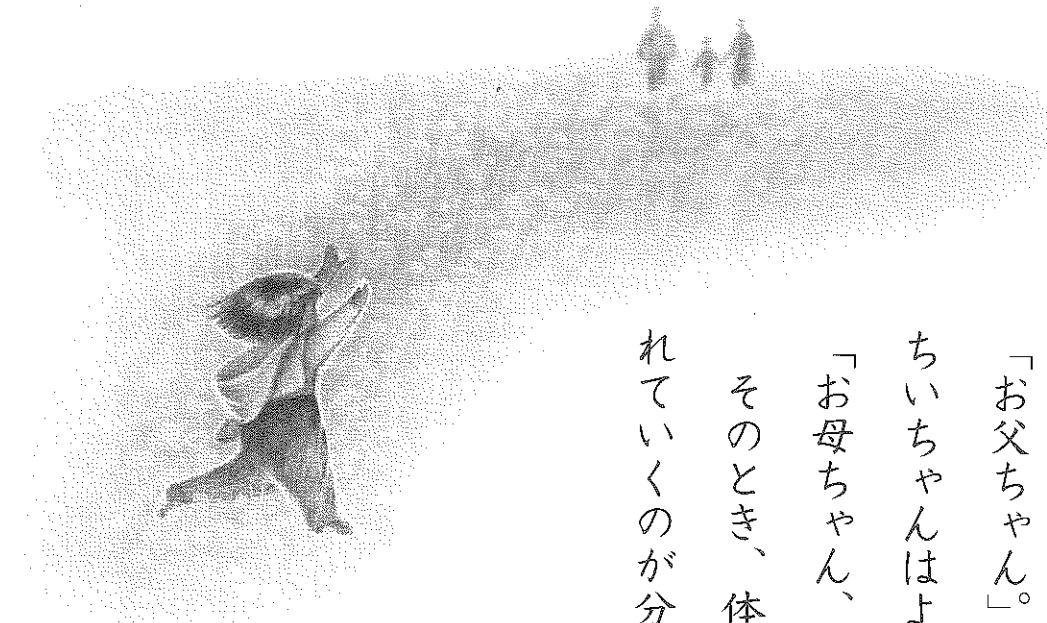
そのとき、体がすうっとすきとおって、空にすいこまれていくのが分かりました。

一面の空の色。ちいちゃんは、空色の花ばたけの中に立っていました。見回しても、見回しても、花ばたけ。

「きつと、ここ、空の上よ。」

と、ちいちゃんは思いました。

「ああ、あたし、おなかがすいて軽くなったから、ういたのね。」



そのとき、むこうから、お父さんとお母さんとお兄ちゃんが、わらいながら歩いてくるのが見えました。

「なあんだ。みんな、こんな所にいたから、来なかったのね。」

ちいちゃんは、きらきらわらいました。わらいながら、花ばたけの中を走りだしました。

夏のはじめのある朝、こうして、小さな女の子の命が、空にきえました。

それから何十年。町には、前よりもいっぱい家がたっています。ちいちゃんが一人でかけおくりをした所は、小さな公園になっています。

青い空の下、今日も、お兄ちゃんやちいちゃんぐらいの子どもたちが、きらきらわらい声を上げて、遊んでいます。

10

5

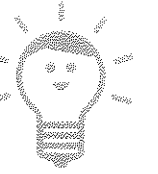
10

5

命いのち

軽かるい

あまん きみこ
一九三一年、中国
に生まれる。作家。
「車のいろは空のいろ」
「おにたのぼうし」
などの作品がある。



場面のうつつりかわりをとらえて、感想をまとめよう

「ちいちゃんのかげおくり」を読んで、あなたはどんな感想をもちましたか。場面ごとに、出来事や人物の気持ちを考えながら読んでいねいに読みましょう。そして、心をうたれた場面を中心に、感想文を書きましょう。

場面のうつつりかわりをとらえながら読もう

▼この物語は、一行空きによって場面が分かれ、第一と第四の場面に、「かげおくり」の様子がえがかれています。二つの「かげおくり」をくらべましょう。同じところはありますか。ちがうところはどこでしょう。

▼二つの「かげおくり」の間には、どんな出来事があったでしょう。その間に、「ちいちゃん」のまわりからうしなわれていったものは、なんででしょう。

感想文を書こう

① いちばん心をうたれたところを書きましょう。

・場面全体を短くまとめたり、心をうたれた文を書きぬいたりする。

・そのときの登場人物の気持ちや場面の様子をそうぞうして、感じたことをくわしく書く。

② 次のような組み立てで、感想文を書きましょう。

はじめ	中	終わり
物語を読んで感じたことなどを書く。 ・さいしょの感想 ・心にのこった言葉 など	いちばん心をうたれた場面を中心に、感じたこととその理由を書く。	自分の考えを書く。 ・作品を読んで、ねがうこと ・これから自分がしたいことなど

「はじめ」や「終わり」が、「中」とつながるようにしましょう。

なにかえさ



□ 場面のうつつりかわりをとらえるために、何に注意して読みましたか。
□ どんなことに気をつけながら感想文を書きましたか。

▼第五場面があるのとないののでは、どちらがうと思えますか。第四場面にあるにた表現を見つけて、考えたことを、理由とともに発表しましょう。

〈理由をせつめいするときの言い方〉

- ・なぜかというと、――。理由は、――。
- ・――だからです。

▼第五場面について、あなたと友だちの考えで、同じところやちがうところはありましたか。友だちの発表を聞いて、あなたの考えがかわったところはありますか。

自分の考えをもうぐう

「ちいちゃんのかげおくり」を読んで、どんなことが心にうかんできましたか。